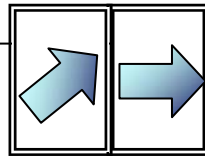


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（4月7日時点）～

国内景況感

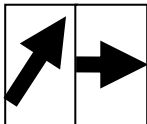
アジア向けを中心に輸出が引き続き増加傾向を迎えることから、当面、景気の緩やかな持ち直しが持続する。しかし、内需の回復に期待できないなか、世界経済の減速に伴って輸出の伸びが鈍化することで、年末にかけて景気は減速に向かう見込み。



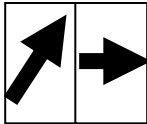
現状 6ヶ月後

(2010年4-6月期) (2010年10-12月期)

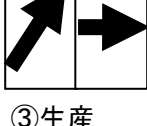
①世界経済



②輸出



③生産



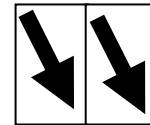
④企業収益



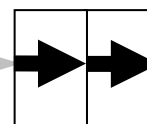
⑤設備投資



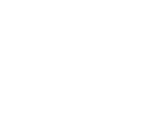
⑨公共投資



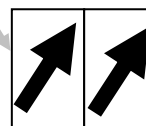
⑦個人消費



⑥雇用・賃金



⑧住宅投資



国内需要



⑩物価



(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、2010年4－6月期に景気対策の効果に加えて、循環的な動きの強まりによって拡大傾向が持続しよう。10年後半は金融問題が尾を引き力強さに欠ける中、景気対策の押し上げ効果が弱まり、減速すると見込まれる。 ・米国経済は、10年前半に景気対策効果によって個人消費の拡大、政府支出の増加、在庫調整の進展によって、潜在成長率である前期比年率+2.5%を上回る成長が見込まれる。10年後半には金融問題による景気抑制圧力が続く中、景気対策の息切れ、在庫の増加ペース鈍化により、減速すると予想される。 ・ユーロ圏経済は、海外景気の回復、景気刺激策によってプラス成長が続くものの、金融問題への対応の遅れによる信用収縮、低い水準のマインド等が景気回復の障害となり緩やかな拡大となっている。年内、同様の動きが続くと見込まれる。 ・アジア経済は、金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策、世界景気の影響を受け、10年4－6月期以降も中国主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	中国景気的好調持続に加え、米国経済も持ち直すなど、海外経済が回復しており、輸出は改善している。当面、改善傾向が続く見込みだが、年末にかけて、世界経済の減速を背景に鈍化が予想される。
③生産	輸出増加を主因として、生産は持ち直している。しかし、年末にかけて輸出の増加ペースが鈍化することで、生産も減速が予想される。
④企業収益	生産増加やコスト削減を背景に、企業収益は持ち直している。当面、輸出や生産の増加などに伴い回復していく見込みだが、10－12月期以降、輸出の減速が見込まれることから、企業収益も次第に頭打ちになるだろう。
⑤設備投資	輸出の増加を背景とする企業収益や稼働率の持ち直しに伴って、輸出関連製造業を中心に設備投資は持ち直しつつある。先行きもこうした状況に変化はないとみられ、増加基調が続くだろう。もっとも、内需の停滞から非製造業の投資抑制が続くため、設備投資の回復ペースは緩慢なものにとどまると予想される。
⑥雇用・賃金	生産活動や企業収益の持ち直しなど景気回復の影響が波及することで、雇用や所得は悪化に歯止めがかかっている。先行きは緩やかな回復が期待できるだろう。もっとも、売上高の水準が低い中で雇用過剰感が残存することから、回復ペースは緩慢なものにとどまると予想される。
⑦個人消費	6月から子ども手当が支給されるが、多くは貯蓄に回るとみられ、消費押し上げ効果は限定的なものにとどまるとみられる。雇用・所得環境の改善が緩やかなものにとどまることもあり、消費の伸びは高まらないと予想される。
⑧住宅投資	雇用や所得の悪化や金融機関の融資態度の厳格化による資金調達難などを受けて、住宅投資は低水準で推移している。先行きについては、在庫調整の進展や各種住宅取得支援制度の効果などにより、住宅着工は緩やかに持ち直すと予想される。
⑨公共投資	2010年度当初予算で公共事業関係費が大きく削減されたことから、減少基調が続くと予想される。
⑩物価	景気悪化に由来する物価下押し圧力が根強く残っており、物価下落が続いている。需給ギャップの解消は当面見込まれないことから、デフレは長期化が予想される。